大正九年三月二十三日第三種郵便物認可

婦人と新社會

山田わか主筆

四月號

婦人の心理的創造力の解放

女子高等教育と出產率

革命と人間性

何が流行の浪を造るか

海外事情

米國婦人の政黨組織

白婦人と黑婦人

クープリンの見たレニン

男子の不貞操に附て

大音樂者の資格が主婦に必要

K　先　生

教育社會學

毎月一回一日發行　第四拾號　大正十年四月一日發行

東京　婦人と新社會

マグダレン・マルクス著
山田わか女史譯

既成文學を超越したる現代無二の名著出づ!!

女

わか子さんが半歳の心血と渾身の努力を盡して譯了し、我が愛する青年男女と婦人問題研究家の爲めに提供された書物は實に本著であります。此の書は女の赤裸々なたましひの正體を最も大膽に描破して歐洲の讀書界を震駭せしめ本國の佛蘭西では羽が生えて飛ぶやうに賣れ、到る所で盛大な講演會が開かれ、有らゆる著名な哲學者、批評家、小説家などから熱狂的賞讃の聲を浴せられ、今や爭ふて各國語に飜譯されつゝある世界的空前の名著であつて、私共は本書によつて始めて力强い時代の精神と女性にまつわる因襲的一切の情實を投げ捨てた代表的な新しい女の姿を有りのまゝに見ることが出來るのであります。

四六版四百五十頁
總洋布美裝天金函入
定價貳圓五拾錢
送料拾貳錢

發行所
東京麴町區平河町六丁目
振替東京三四六六七番
耕文堂
電話九段二六二七



婦人と新社會

情緒に色づけられた思想が世界を支配します。

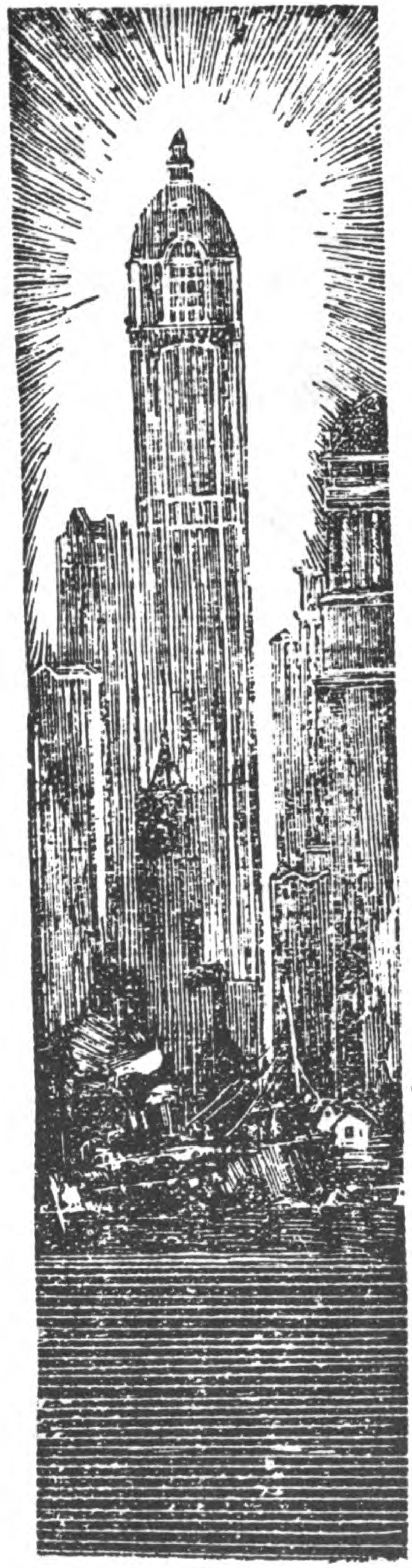
世界が今遭遇しつゝある危機は、結局、間違つた思想の果實であります。個人に付ての概念、國家の概念、世界組織の意義を間違へてゐた結果です。

遲かれ早かれ哲學的宗教的倫理的其の外一般の社會的の信仰が再建設されねばならぬと云ふことは無上命令です。

そして、其の再建設の第一歩は各人の眞面目な言說と行ひです。眞面目に考へ、眞面目な行ひをすることによつて、猶重大な人生の問題に付ての考へが起つて來ます。

眞面目な態度をもつて向はねばならぬ事柄は數多いに相違ありません。けれども、先づ、第一に私共が目標とする處は家庭の改造であります。

四月號



婦人の心理的創造力の解放

婦人問題は孤立した問題ではなく、あらゆる問題に關係してゐるものであります。婦人問題は、いはゆる婦人の問題ではなく人種の問題であります。唯に性に關する問題ではなく、社會問題であります、猶又、婦人問題は物質の問題ではなく、精神の問題であります。即ち、人種の進歩のために婦人の心理的創造力を解放しようとするものであります。

婦人問題は婦人が男子に對抗し、相爭はうとするものではなく、男女の深い調和を

計らうとするものであります。ですから、其の目的は家庭及び社會に混雜を引き起すのではなく、過去に於て婦人が爲し得たよりもより高い熱望をもつて婦人の使命を完成しようとするものであります。今迄よりも遙かに高尚な型の母性を發達させようとするのが其の目的であります。

ですから、婦人問題の意味を誤解し、女性の性情、及び、其の能力を無視し母性の發達を阻止するものは婦人自身の向上並びに人種の進歩を阻害するものであります。

其處で、婦人の眞の自覺と云ふのは婦人の精神的の眼覺であります。けれども、それは所謂宗敎的に眼覺めると云ふ意味ではありません。最高な生活の型を目標として其の方向に萬難を排しても押し進んで行かうとする婦人の力を自覺することが精神的の眼覺めであります。勿論、其のうちには高尚な宗敎的なかたちが性格の一部とはなつて居ります。猶云ひ直せば、婦人の精神的の眼覺めとは婦人の創造的可能力を充分に活動させようとすることであります。

過去の婦人は物質上の重い義務を負はされて居たゝめに其れに妨げられて、此の精

神的な創造的な領域に於て、女性としてこの能力を充分活動させることが出來ませんでした。併し、これは進歩の順序で止むを得なかつたのかも知れません。文明を押し進めて行くには物質上の土臺が先づ造られねばならないのですから。

けれども、物質文明が此處迄に進歩して來た今日、いよ〳〵婦人は婦人獨特の領土即ち精神的創造的の範圍に於て充分其の能力を發揮し、活動させる時に到着したのであります。婦人が其の使命に目覺めることが婦人の自覺であり、社會が其の使命を認めて、そして、奬勵することが婦人の眞の解放であります、そして、婦人の精神的の眼覺が最も直接に人種に及ぼす影響は子供が持つてゐる天才を發見することと、そして子供の其の天才が社會に及ぼす價値を見ることとであります。

何世紀も〳〵の間、母の想像力が發達しないために、人種が失つて來た損害は實に計り知ることが出來ない程でありませう。鋭敏な母の想像力が子供の上に如何なる影響を與へるかを考へて見るならば、人種の進歩に母の力の與る處はどんなものであるかゞ直ぐに了解出來るでありませう。遺傳の力も大きなものには相違ないのですが、

併し、聰明な母が子供の心を理解して子供を養成する創造力が人種の進歩に無くてならないものであります。

誤解された婦人問題は、子供を誤解すると云ふ結果になりました。婦人があらぬ方向に發展して行かうとした結果は婦人の母性が萎靡し、婦人の子供に對する理解力が貧弱になり、そして、人類の發電機である子供の想像力は母の無理解のために壓し潰ぶされてしまいました。

唯、母の想像力のみが子供の想像力を認めることが出來ます。神精に同情することが出來るものは精神計りであります。そして、其の精神は聰明な愛と共働することによつて子供の想像力を育てることが出來ます。

子供の想像力は、子供の一生の旅の旅行劵のようなものです、子供が如何なる方面に發達するかは、確に、此の旅行劵によるわけであります。又、子供の想像力は、まだ飛んだことのない鳥の翼のやうなものです。もし、母が裝飾としての外に、其の翼を認めることが出來ないなら、又、母が其の翼の飛ぶ得ると云ふ原理を知らないなら、子

供の持つてゐる其の小さい翼は決して發達することが出來ません。ですから、母の精神的の理解力が、子供を大きな人物にでも小さな人物にでもする一大要素であります。母の無理解は餘まりに度々子供の發達を阻害してゐるのであります。そして、それだけづゝ社會は損をしてゐるのであります。

此處で、私達の考慮を要する點は、人類の利益のための、婦人の精神的及び智力的の解放としての婦人運動は科學的であるかどうかと云ふことでありますが、勿論、論理的に考へるならば、婦人問題は現代の有力な科學的の思想に從つて考へなければならぬものであります。誰でもが知るように今日の科學的の原則は進化的發達の原則であります。則ち、遺傳と環境の影響を受けなければならない人間は、絶へず、有機體の變化を受け、そして、環境に相調和しなければなりません。此の進化の原則に付いての智識が無かつたならば人間の努力の大部分は無駄になります。

進化の原則は船に於ける磁石よりも人間にとつては大切なものです。或ひは又進化の原則はいはゞ人生に於ける海圖のやうなものであります。そして、此の進化の原則

が私共に敎へたものは、一切のものが決して固定してゐるものでない、則ち、かたまつてしまうものでない、一切が內外からの引力に影響されて常に動きつゝあるものだと云ふことであります。

ダーウインは種の無限に變化することを示して此の進化の法則を私共に敎へました。スペンサーは政治に敎育に結婚に宗敎に此の進化の法則を應用して、そして、一切の社會制度は決して確定したものでなく常に流動しつゝあることを敎へました。マルクスは、又、此の進化の理論を產業に應用して、そして、今日の偉大な產業の活動を豫言しました。英國の文明史を書いたバックルは英國の文明の說明に此の進化論を應用してゐます。

かくの如くに、進化の原則は殆んどあらゆる社會現象を說明し得ることが立證されてゐます。そして、私共は此の進化の法則があらる方面に於て働いてゐることを承諾してゐます。

そんならば、人類の母である婦人のみが此の進化の法則の外に居ると云ふわけはあ

りません。一切のものが、此の自然の進化の法則に支配されてゐるのに女性のみが依然と昔のまゝの型で居られると云ふ理由がありません。今迄は、常に自分の利益を無視してゐた女の愛情は永久不變なものだとされてゐました。けれども今や其の矛盾が取り去られねばならぬ時に私共は到着しました。

科學は男のための科學であつて女のためのものでないと云ふ理由はありません。進化が男にのみ行はれて女には行はれないと云ふ理屈はないのであります。男はいろ〳〵のことを經驗するので進歩して來ました。男は自分の力を常に新しい方面に用ひたことによつて新しい能力を造り、新しい作用を起して進歩して來ました。けれども婦人の力は狹い範圍に限られてゐました。從つて、今迄の婦人の經驗は淺い、變化が少なかつた、其のために婦人は男子に後るゝことが遙かであります。けれども、今や、婦人は眼覺めつゝあります。此の時に當つて科學の力が此の眼覺を促進しなければなりません。人種の進歩が其れを絕對に要求します。

婦人と云ふ船は未來の國民と云ふ神聖な荷物を積んで創造的進化の一般の方向に向

はねばならぬ時に今は到着致しました。こう考へた時は婦人の經濟的の獨立などと云ふことは些々たるものになつてしまいます。

男と女の日々の仕事は異つても——又、異ならなければなりませんが——併し、男と女は同じ海の上を同じ目的、則ち、精神的に完成された國民の養成と云ふ港を差して私共に航海するものであります。

して見ると婦人運動は人間の發達の法則と相並行するものであります。そして、正確に科學的であります。人間の進化の理法に輝して見ると婦人運動は生理的から心理的に心理的から精神的に進んで來たもので、人類と云ふ大家族の發達の結果今日に到達したものであります。ですから、婦人運動は宇宙の歴史に於て、最も有意義な、遙かに影響する運動であります。

婦人に關して最も古い信仰をもつてゐる人でも人間の精神上の發達を不可能なことだとは思つてゐないでせう。人生は物質のみをもつて滿足できるものではありません。今日の私共は神精界の海上を航海するために生れてゐるようなものであります。そし

て、こう考へて、婦人問題を精神的に解釈するならば其の時に始めて誤解された婦人問題が正當に解釋されます。そして婦人問題は建設的であつて決して破壞的でないことが明らかになります。

婦人問題はあらゆる社會問題の最高に位するものであります。

今年の貴族院は昇格問題で賑かだつた。成程昇格問題は昇格そのものよりも文部大臣の昇格問題に對する行きちがいが人格問題に關する事で、引ては國民の風教問題に關する事であるから大問題には違ひないが、併し、これも多く問題のうちの一つの問題にすぎない。であるから、我が議會が本とうに國民の意志を代表し得てゐるか、又代表するに如何なる障碍があるか、と云ふように一般的に考へて見ると貴族院が現内閣に對する仕事は他に多くあるように思へる。處が、一般國民の意志をそつちのけにして一部の意志の問題に熱中された事は大いに貴族院の威嚴を損したような氣持がする。



女子高等教育と出産率

ダーウインの自然淘汰と云ふのは生て行くに適した人間が生き殘つて不適當な人間が滅びて行く、つまり、惡氣候、病氣、不完全な生れつき、危險な職業、過度な食慾及び生殖慾が人間を滅して行く自然の働きを云つたものです。則ち、自然は生存の不適者を排除するのであります。

處が、此處に自然淘汰の外に社會淘汰と云ふのがあります。これは自然淘汰が排除しようとするような不適者をいたはつて生存し得るようにしますが、併し、一方には社會的不適合者を排除します。つまり現在の社會に容れ難い人間、則ち、異端を稱へるものや、犯罪人などを殺してしまいます。

社會淘汰はそう云ふ人間を排除しますが、併し、其の外にはどう云ふ人間が生存すべきかは規定しません。處で、どう云ふ人間が子孫を殘していゝかは規定します。云ひかへれば社會淘汰は生存すべき人間を選擇しないけれども、併し、兩親を選擇しようとします。ですから、もし、社會が種族を改良しようとするならば社會は次の要素の一ッ或ひは一ッより多くを强くすることによつて其の仕事をします。其の要素とは則ち(第一)は結婚しようとする傾向、(第二)は結婚の多寡、(第三)は婚期、(第四)は子供を持たうとする意志、(第五)は子供を優良に育て上げる能力です。

こう云ふ要素の一ッ或ひは一ッより多くを强くすることによつて、種族は改良されるのであります。かくの如くにして社會は人間のタイプの意志を基礎としてタイプの區別をしました。これに反して、自然は大抵タイプの肉體の特性に、或ひは、タイプの本能を基礎としてタイプの區別をして來ました。

これを詳細に話さうとすることは餘まりに大きな仕事で、とても、今、出來ないのでありますが、私が此處にお話しようとすることは、現代社會の特長となつてゐる選

擇の方面、殊に婦人と高等敎育に附いて考へて見ようとするのでありますが、併し、其の前に極く簡單にお話して見たいことが二三あります。

昔の戰爭の一人々々の接戰に於ては、最も勇敢な最も强い最も敏捷な人間が適者生存の原則によつて生き殘つたものでありますが、現代の戰爭に於てはそうは行きません。機械によつての戰爭でありますから、勇敢も腕力も敏捷も其の身を救ふ役に立ちません。のみならず、選りぬきの優良な靑年が危險な戰場に行つて、心身共に虛弱な靑年が後に殘るのでありますから優良な男子が子孫を殘さないで、虛弱な男子が次代を造ると云ふことになります。今回の大戰爭は大規模に於て其れを實行したのであります。

これと同じようなことが平和狀態にあつても行はれてゐましたし、又、現に行はれてゐます。ローマンキャソリック敎會の說敎師等は智力の點から云つても德の點から云つても確に一般人からは優れてゐたのでありますが彼等は獨身者でありましたから後へ子供を殘しませんでした。これは人類の莫大なる損失であると云はれてゐます。

そして、其の證據として擧げられてゐるものは、新敎の傳道師等が結婚生活を送つたことによつて世界は科學上文學上非常な利益を得てゐる。世界で一位を占めてゐる科學者、又は、文豪、たとへば、マガシース、ベルゼリアス、エンケ、オイレル、イエネル、リネアス、エマソン、ハラム、オップス、アデスン、ベン・ジョンソン、レッシング、リヒテル、スイフト、タムソン、ウイーランド、及びレン、並びに第二流の無數の學者文學者が新敎の傳道師の家庭から出てゐる。もし、新敎の傳道師が獨身生活を送つてゐたならば世界は前述の有益な人物を得ることは出來なかつた。であるから、舊敎の說敎者達が結婚生活を送つたならば、世界はもう一段の利益を蒙つたろうと云ふのであります。

合衆國の國民敎育は五十萬人以上の女敎師によつて支持されて居るのでありますがこれ等の女敎師の能力と性格は先づ大體に於て、一般婦人よりは優れたものであります。そして、又、彼女達は智力的に道德的に優秀な階級から出てゐます。處が、敎育當局の方針は未婚婦人のみを採用することになつて居りますので、敎師としてどんな

に優れた腕前があつても結婚すると同時に教職を辭さなければならなくなつてゐます。ですから、教師として立たうと思へばどうしても獨身を守らなければならないわけであります。

併し、これは教育の立場から見れば都合がよいけれども人種から見て不利益であると云ふ說が此の頃やかましくなつてゐます。そして小學校女教師に結婚を許せと云ふ議論が盛んになつてゐます。優生學の見地から、女教師に成り得る優秀な婦人は獨身の教師になるよりも母になつた方が社會のために遙かに有益であると云ふのでありま す。

合衆國に於ては、此の頃非常に出產率が低くなつてゐるのです。統計を見ますと十八世紀に於てはニユーイングランドの大學の卒業生のうち結婚しないものは百人のうち僅か二人しかありませんでした。處が、一八六一年から一八七九年の間にエール大學の卒業生は結婚しないものが百人のうちに二十人となり、そして一八七六年から一八七九年の間のハーバート大學の卒業生は百人のうち結婚しないものが二十六人あり

ました。こう云ふように先づ優秀な部類に屬する人々の結婚數は追々に減つて來てゐるのであります。

それから、もう一ッ重大なことは婦人の高等教育と出產率の關係であります。合衆國に於ては教育上の問題に付いては今は女子も男子も同じであります。どんな高等學府へでも女子が行けるのであります。米國の大學生の三分の一以上は女子であると云ふ事實は先づ教育上女子も男子も同じ機會を持ち得ると云ふことであります。合衆國では全婦人のうちの四十分の一は大學に居ることになつてゐます。今日の四十人に對する一人は、やがて三十人に一人、二十人に一人、十人に一人と云ふ比例になろうとしてゐます。なぜなら、女子大學生を出してゐる階級の女子は其の能力に於ては同じでも、早婚の理由で大學へ行く機會を失つたり、父母の奬勵が無かつたり、或ひは資金の關係から大學に行けなかつたのが、それ等の障碍はせん〳〵と減じて行くのでありますから。

其處で、婦人のうちの優秀な、女子大學生が追々と殖へて行つて、過半數になつた

ならば出產率にどう云ふ影響があるかと云ふことが、今、大問題になつてゐるのであります。同じ階級の婦人でも大學に行く婦人は行かない婦人よりは少なくとも結婚が二年は後れます。それでなくても、既でに大學生を出す階級の娘は他の階級の娘よりは二三年は後れるのでありますから、女子大學生の結婚は他の階級の娘よりは五年後れるわけであります。其の上に大學を出た婦人の殆んど半分は結婚しないと云ふことであります。これに反して、一般の婦人は十人のうち九人迄は結婚してゐると云ふことです。

大學卒業生は、又、結婚しても生む子供の數が非常に少なくて平均數は二人で、或る大學の卒業生の比例をとつて見ると一人强だと云ふことであります。大學生活は女子の生理的の勢力の最も旺盛な時でありますから、勿論、それが出產率に影響するのでありませう。ですから、優秀な婦人の二十人に一人、十人に一人が大學に行くようになつたならば優秀な婦人の子供は益々少なくなつて行くと云ふようなことになるのであります。そして、平凡な婦人計りが多くの子供を生むことになります。

又、同じ大學の卒業生でも、普通の卒業生は直ぐ結婚するに反して、學業に秀でたものは三年も五年も結婚を延ばすようになります。敎師の試驗を受けても、成功したものは結婚を延ばし、失敗したものは直ぐ結婚すると云ふようになつてゐます。

一體、今の女子の高等敎育は女子としての能力の增進と云ふよりも、家庭を去つて社會に出ようとする所謂婦人解放運動の一部分であつて、そして、今や婦人は男子と同等な準備を爲し、男子と同じ機會を求めてゐるのでありますが、前にも云つた通り婦人が其れに成功すればする程婚期は後れ、或ひは全然結婚しないことになつてしまうのであります。

で、優生學者は女子が遲くも二十歲で大學が卒業出來るように女子の小學敎育を改革するならば、女子が大學へ行くことを大いに贊成するなどと云つてゐます。もし、そう出來るならば女子の高等敎育は出產に何等の影響がないことになります。

處で、婦人が普通の子供の數を持つようになると婦人は職業上、男子と同等に働くことは出來ないようになります。先づ、三年目に子供を生むとして五人あれば、そし

て、最後の子供が七ッになる迄、自身で子供を育てようとすれば、婦人はどうしても十七年間は家庭を離れることが出來ないと云ふことになります。家庭の仕事が全然改良されて時間の節約がずつと出來た處が、子供の世話や授乳の仕方には大した改良の餘地があるとは思へませんから、子を持つた婦人が男子と競爭し得るとは考へられないのであります。家庭は家庭らしくなく、子供は他人の手に任せきりにして置くのでなかつたならば婦人の職業は不可能と云ふことになります。

從つて、母態と職業とは兩立出來ない、其處で、天分ある若い婦人は結婚を斷念して事業の方に走つて行きます。そして。結婚して、次代を造るものは平凡な女計りと云ふことになります。そうなつては、勿論、優秀な婦人の才能は次の時代へ殘らない平凡な女の子供計りで次の時代は造られると云ふことになります。

其處で、人種の立場から、又社會の立場からは優秀な婦人が職業婦人になるよりも母になることを希望するようになります。社會は今日の傾向とは正反對に、最優秀な婦人が母となつて立派な子供を澤山生み、二流三流の婦人が敎師となり職業婦人とな

ることを希望致します。

優生學、及び、社會は婦人にそう望むのでありますが、併し、才能のある婦人、智力の優れた婦人は母態を捨てゝ事業の方に走つて行きます。何故でせう？　母となつて子供を育てゝゐるよりは事業にたづさはつてゐる方が社會から尊敬されるからであります。もし、職業を持つてゐるよりも家庭にゐて子供を育てゝ居る方が社會から多くの尊敬を受けることが出來るならば、優秀な婦人が母態に滿足するようになりませう。そして、婦人自身も子供も夫も圓滿な生活を營み得る計りでなく人種の利益は莫大なるものでありませう。

併し、それは、社會が優秀な母態の價値を認め、平凡な母態との區別を識別し、そう云ふ母の子供が社會上有利な位置を贏ち得るような社會狀態になる迄は不可能でありませう。



革命と人間性

共産主義は慾求に反す

『婦人問題は勞働問題である。そして、勞働問題は即ち經濟問題であるとしたならば經濟問題をよそにして、どうして、どこに婦人問題の解決が得られよう？教育問題戀愛問題其の他婦人問題といふ中に一括せられてゐる諸種の問題は、經濟問題と云ふ根本の問題が解決せられた曉には、自ら解決の道のつくものであることを認めなければならない。』

これが山川菊榮氏の婦人問題に對する御議論の基調であらうと私は想像する。そして、其の餘まりに唯物主義に傾いて居られることを私は遺憾とする。のみならず、此の社會の一切の基礎を經濟の上に置くことは既でに伊太利の碩學ロリア博士が今より二十有餘年以前に『社會の經濟的基礎』と云ふ著書で詳論され、同時に其の議論の根據は多くの社會學者によつて論破されてゐるのである。

パンの問題、無産階級の問題は現代に

於て大問題であることは事實で、それを私は決して無視するものではないが、併し、果して、婦人問題、引いては、人類の幸福が經濟問題の解決によつて計られるものであるかどうか、私は大きな疑問をもつてゐる。もし、經濟問題が婦人問題を解決するのであつたならば物資にことを缺かない有産階級の婦人には問題はない筈である。云ひかへれば、金さへあれば不幸はない筈である。處が、外見にこそ相違があつても其の內情は金のある婦人だからと云つて決して幸福な生活は送つてゐない。

饑死しそうになつた時には食物を得ることが緊急事である。努力の全部である。けれども、腹が一杯になつた時には人は直ぐに外のことを考へる。此處に一層難しい問題が潛んでゐると私は觀察する。又、實際に於て、今日の處では平時に於て饑死するような人間が社會問題となる程數があるとは信じられない。問題は、むしろ、何を食はうかの問題であらう。つまり、よりよきものを食ひたいと云ふ問題で食ふものがなくて死ぬと云ふような狀態に今日の國民は居るのでないことを私を信じる。そして全然食へないのではなく自分の慾望するものが食へない結果釀される罪惡は財力が有り餘まる結果の過度に食ひ、過度に性慾を亂用する罪惡よりも少なくとも多くはないと考へる。して見ると經濟問題よりも他の重用な問題が其處にあると云ふことになるのである。

過激思想の持主、社會主義者であられ

る菊榮氏は又露國勞農政府の施政を稱揚しながら紹介して居られる。新聞紙を通じて、又は、人の話によつて私共が知る露國の現狀は戰慄せしめられるようなこと許りであるが、菊榮氏の紹介された露國は實に整然としてゐて今將に自由の花を開かうとしてゐる蕾の時代である。『露西亞の勞働婦人は崇高な感激と、無限の熱誠と、靜かな謙遜とを以て其の義務を遂行してゐる』そして『自己の勞働に依て生活する人民が、一時的又は永久的勞働不能、即ち老衰、疾病、姙娠、自己の過失に依らざる失職等に陷つた場合、及び、適當なる保護者無き兒童は例外なく國家の保護と扶養とを受ける權利がある。』

又、『母親及び乳兒保護局は姙産婦及び乳兒の保護に關する一切の事務を司る。筋肉勞働に服する婦人は産前産後を通じて十六週間、他の職業婦人ならば十二週間づゝ、平素の給料を受けながら勞働を免せられる。一般に姙婦はパンの割宛分量を增加され無料で醫藥を支給される、都鄙を通じて姙婦を收容する婦人ホームが多く設立せられ姙婦は其處で各自の健康に應じて輕易な作業に服することも出來れば休養することも出來……分娩時には露國の現狀に於て能ふ限り優良な食物と手當とを與へられる國立産院に入り、熟練した醫師や産婆看護婦の親切な注意の下に、安心して分娩する。此處での取扱は絕對平等で何人の子も平等に大切にせられ、平等に國家の保護を受ける。産後三週間で彼女は子供と共に專門家の監督

の下に在る乳兒院に收容され、三ヶ月其處で子供を育てることが許される。若し母親が自宅で出產し、哺育したいと思ふならば前述の如く產前產後は勞働を免除せられるのみならず、授乳期間を通じて勞働時間は四時間に短縮せられ、經濟上の補助と牛乳、肉類、バタ等の特別割宛を請求する權利がある。』

さて、これが全部事實であるとして置いて此處で私が考へて見たいのは私が黑丸を付けて置いた『權利がある』と云ふことである。どんなに立派な權利が確定されてあつた處が其の權利が有效に行使されるかどうかと云ふことが問題になりはしまいか？　權利はあるが取るべき品物が向ふに無かつたならば、物品と交換することの出來ないルーブルを山程貰つたのと同斷ではあるまいか？　又、『もし母親が自宅で出產し、哺育したいと思ふならば』と云ふ一句もあるが、母親が白痴狂顚でなかつたならば皆自宅で出產したいに相違ないと私は思ふ。姙娠中は婦人ホーム、分娩時は國立產院、分娩後は乳兒院と轉々として移り歩くことが決して婦人の幸福でないと私は信じる。

今は何處でもお產の時は大抵病院へ行くのが通常になつてゐるが、これは病院の方が手が屆くと思ふからで、自宅で充分手が屆くならばわざ〳〵病院へ行くものはないであらうと思ふ。つまり、今日の我國の產科病院と云ひ、菊榮氏の云ふ國立產院、又は乳兒院と云ふものは家庭が不完全であるために其の補足として存在の理由があるのである。又、菊榮氏は

『兒童局は、養育院、兒童コムミユン、兒童ホーム等を設立し兒童の爲めに家庭を代用する。』と云はれる。

要するに今擧げて來たなにもかもが家庭の代用なのである。そんならば、代用でない本物は家庭にあるのだからして、代用となる諸設備に費す金と勞力を本物の家庭を完全にするために費す方針を取るのが順序であらうと私は考へる。又、家庭勞働の社會化と云ふ一節に於ては『今日の主婦人の時間と精力とを誅求し、其の自由な活動と發達とを妨げる原始的な家庭勞働が廢滅せられ、婦人も亦家事の煩ひを免れるようにならなければ其の眞の解放は實現されない』とあつて掃除、洗濯、食物の調理等、一切が勞農露國に於ては大規模に營まれて婦人の手から離れようとして居ることを菊榮氏は賞歎して居られるが、併し勞農露國迄行かなくても、我が日本の現在でも、洗濯屋もあれば辨當屋もあれば料理屋もあるからして、必ず自宅で調理しなければならないと云ふことはない。現に大勢雇人を使つてゐる處では三度々々辨當屋のもので食事をすませてゐる處もある。

そう云ふ便利なものがあるのに一般人はそれを利用しようとはせず各々の家庭で食事ごしらへをして居るのはなぜであらうか？　腹がふくれさへすればいゝと云つては居ない現代の人間には其れ〳〵の趣味趣向がある。であるから、萬人向きに一定の時間に調理されたものよりも自分に都合のいゝ時間に自分の口に合つたものを食べたいからである。そして、

それは個性の發達した文明人の當然の要求ではあるまいか？　故に、菊榮氏が元始的な家庭勞働と云つて非難されるに反して、私は却つて、菊榮氏の推稱される大規模の調理法、萬人が萬人皆同じものを食はされなければならない方法は野蠻的であらうと考へる。

紙數に限りがあつて思ふように書けないけれども、私だとて現在の狀態に決して滿足して居るものではない。けれども、どんな改革も革命も人間性と人間の進步に相反したものであつては決して成功するものでないことを私は山川菊榮氏に申上げて置きたいと思ふ。

以上は山川菊榮氏に對する公開狀をと『婦人公論』からの依賴を受けて書いたものであるが、此處に附け加へて置きたいことは、菊榮氏の云はれる露西亞婦人のやうに多くの人間が皆崇高な感激と、無限な熱誠と、靜かな謙遜な態度とをもつて各々の義務を守つたならば、わざわざ國家の組織を變へなくとも、云ひかへれば形式は何んであらうとも不都合はないわけである。

今日の我々の不幸、不都合の大部分は人間の我利々々の性質に重もに歸因してゐることを私は信じる。であるから、今日の國家が共產主義的國家になつた處が、人間の其の性質に變りが無い以上は矢張り同じことであらうと思つてゐる。

經濟學者、社會主義者、政治家、及び、產業改革家等の意見にどんな違ひがあるとしても、併し、其處に一ツの共通點がある。そして、それは經濟上の意味に於

ける凡ての價値は皆勞働に歸因してゐると云ふことである。處で、彼等の一ッの誤謬は、其の勞働と云ふものは自然に人間に喰付いてゐる、則ち、人間は皆勞働をしずにはゐられないものであるように考へて居ることである。併し、實際にはどうしたら人間を怠けさせないで働かせ得るかと云ふことが根本問題であるように私は思ふ。

元始時代の人間が獸物を獲つたり、魚を漁つたりしたのとは今日の意味の勞働は違つてゐる。そして、今日の此の經濟的の勞働を人間がするようになつたのは、自然にこうなつたのではない。こうしなければならないように敎へられたのである。何に敎へられたのであらう。そう云ふのは誠に遺憾なことであるが鞭に敎へられたのである。鞭を恐れて人間は繼續的に働くようになり、そして、或る程度迄は其れが獲得性になつたのである。

其處で、私は人間と云ふものはまだ今日の處では强い恐れか、或ひは强い愛が無ければ働かないものであると考へてゐる。であるから、社會組織をどう云ふ風に變更した處が、不幸の量が殖へるとも決して減じるものでないと私は信ずるのである。社會主義者ですらも著名な人は此の點に氣が付いてゐる。そして、ウエッブス氏の言葉に次のようなのがある。『もし、人間が働きたい時に働いて、氣がむかない時には働かないと云ふ自由を持ちたいならばロビンソン●クローソーのやうに無人島に移住するに如くはな

い。命令と云ふことが無くて產業が成り立つと想像するのは社會主義の主張ではなく、所謂無政府主義の主張である。』と、そして、又、云ふ。『普通、人間は出來るだけ怠けてゐようとする傾向をもつてゐる。で、其の人間を野蠻狀態から脫しさせるものは壓制か、又は野心である。』と。

又、ヒユームは云つてゐる。『一社會が王國であれ、共和國であれ、一般原則の上に單に理論の上に其の社會を治めようとすることは、たとへ、天才が出現しても不可能なことだ。なぜなら、一社會が治められるには多くの人間の判斷が經驗のかたちとなつて集まつて働かねばならないから。經驗が人の行動を導き、そして、時間が其れを完成する。不便が誤まりを正し、かくして有効な法律が出來る。』と。

嘗て、ブライス博士は云つた。米國の憲法は大體に於て、英國の憲法をのッとつたもの、つまり英國の憲法の寫しである。そして、米國憲法制定員が新らたに造つたと自慢した條項は大統領の選擧に關する條項だけである。併し、其の大統領とても其の手本は矢張り英國の憲法のうちにあるもの、則ち、ジヨージ第三世の變形に過ぎないものであつたと云ふ。處で、いよ〳〵其の憲法の實施と云ふことになると、憲法制定員が卑しめてゐた英國の憲法其のまゝのものは立派に運用されるが、彼等が新しく造り、そして、自慢してゐたものはさつぱり動かない、

（以下四十頁へ續く）



米國婦人の政黨組織

婦人選擧人同盟會が合衆國全般に渡つて組織され、各州にも設立された。これは會としては無所屬であるが併し會員としてはそれ〴〵の黨派を選んでゐるに相違ないと云はれてゐる。會としては民主黨にも共和黨にも屬さないで是々非々主義をとり、そして、どの黨のプログラムにも無い政策を考案してゐる。此の會は過激主義の調査とか勞働問題の調査とか云ふ方面の仕事はしないが其の代りに母性保護とか婦人の直接市民權とか、又は陪審官としての男女平等な資格とか云ふような方面に努力してゐる。

要するに此の婦人選擧人同盟會は決して過激なものではなく、最も進步した自由主義であつて婦人のためにより大なる好機會を獲得しようと努力してゐるのである。會の主張を宣傳する方法としては印刷物を配付したり、講演會を催したり又は、遊說に步いたりする。華々しい運動もせず、既成の政黨の補助などは勿論受けない。黨派を相手とはせずにどの黨

派に屬する黨員でも、會が理想的と認める候補者には投票するし、又、そう云ふ理想的な候補者がない場合には新らたな候補を立てようとする方針をとつてゐる。

此の婦人選擧人同盟會の外に國民婦人（ナショナルウーメンス）會（パーチー）と云ふのがある。そして、此の會は將來の仕事に關して評議するために本年二月ワシングトン市に集會を開いた。此の會は選擧權獲得に付いて努力して來たと云ふ理由で、婦人選擧人同盟會の方を下に見ると云ふ風がある。

いづれにしろ、此等の婦人選擧人同盟會と國民婦人會との二ッが未來の婦人二大政黨の芽に相違ないと云はれてゐる。今日の處では其の兩方のプログラムのうちには共通なものが澤山あるけれども未來に於てはこれが右黨、左黨になるべきものだと觀測されてゐる。それから、此の國民婦人會の首領は非常な腕きゝであるし、又、此の會は組織能力に富んでゐるし、其の上に新聞紙を操縱する恐るべき手腕を持つてゐるが、政治界に活躍するためには新聞紙を操縱する秘訣が非常な强味であるからやがては有力な政黨になるだろうと云はれてゐる。

白婦人と黑婦人

本年二月合衆國ワシングトン市に於て國民婦人會大會が開催されたことは前章に於て一寸云つたが、『これは一八四八年セネカホールに於て開催された第一回の婦人大會にのみ比較され得る重用なものだ』と云はれてゐる。そして、これは婦人參政權要求者の先祖スザン●ビー●アン

ソニー女史の百〇一年の誕生日に當つてゐたのである。且つ又婦人參政權獲得の祝ひと云ふ意味も含まれてゐたようである。

米國憲法第十九條は既でに批准された。地球上に政治上のデモクラシーの烽火を始めて擧げた亞米利加は市民のうちに政治上男女の區別をしない國民となつたことを世界に告げた。けれども、此處に一ッの不正は、同じ米國市民である三百萬人の黒婦人が選擧權を持つてゐないことである。其處で、ウイリアム●ピックンと云ふ人は其の非立憲的であることを痛論して、そして、國民婦人會の評議員百六十人に質問書を送つた。それは次の如くである。

一、黒婦人に關して、憲法第十九條修正を無効とする企てに賛成するか？

二、此の場合を救濟しようとするならば其の方法は如何。

三、此の問題を貴會は會の仕事として努力される考へがありや無しや。

四、手續きとして諸姉はどう云ふ方法を取らるゝか？

此の質問書に對して答へたものは三分の一であつたと云ふ。そして、其の三分の一のうちの多數は其の不公平を憤慨して何處迄も其れに對して爭ふ決心を示したけれども、中には曖昧な答へをしたもの、又は、黒婦人に選權を與へることに反對したものさへあつたと云ふ。して見ると三分の一だけでも黒婦人の選擧權に賛成してゐるのではないし、且つ又、三分の二は其れに對して全然無頓着で、つ

まり同情がないのだと見ることが出來る
全國を沸騰せしめる程、選擧權獲得に熱心であつた米婦人の態度としては誠にもの足らないものではあるまいか？米婦人の參政權の將來の成功は、こう云ふ風に、黑婦人と白婦人を區別してゐるようではどうであらうかと危ぶまれる。なぜなら、旣でに此處に正義を缺いてゐるものがあるから。

クーブリンの見たレニン

クーブリンは云ふ。

レニンは天才ではない。彼はいゝ加減な敏腕家である。彼は豫言者ではない。唯、甚だ醜い豫言者の影だ。彼は偉大な主領ではない。彼には火のやうな熱情は無い。つまり英雄的氣前がないのだ。彼は冷めたい。無味乾燥で單純である。丁度、幾何學のかたち、直線だけで造つたような人間である。いはゞ彼の全體が一種の公理である。冷靜な圍碁家のやうなものだ。

彼はマルクスの足跡に從つて慘酷な石のやうな理窟を馬鹿氣た極端に迄實行しようとしてゐる。時々やりすぎる。彼の人格にはこれと云ふ特長はない。いくらかあつた特長も政治上の爭闘や反駁のために磨り消されてしまつた。彼の思想が余まりに片よつてゐるからである。

レニンの目には美と藝術は存在しないベートベンのソナタや、レンブラントの油畫や、ミロのビーナスや、又は、ダンテの詩に人がどう云ふわけで感ずるかな云ふこにはレニンは全く興味をもつてゐない。こう云ふ問題に付て人が話し合つ

てゐるのを聞く時にはレニンは丸で大人が子供に對するような顏して笑つてゐる。そして、云ふ。『人は隨分つまらないことに時間を費すものだ。一體、藝術が階級爭鬪及び第四階級の未來の力にどんな關係があるのか？』と。

　あらゆる社會主義の敎へには愛の粒、人間に對する尊敬を含まねばならないがレニンはかような感情主義をわざ笑ひしそして、云ふ。『唯、憎惡、利己主義、恐怖、飢餓のみが民衆を動かす』と。過激派の新聞は時とするとレニンを露國民の父としようとする。けれども、其の企ては皆失敗してゐる。其理由は藥罐頭のレニンは誰をも愛さないし、又、誰からの友情をも求めないからである。

　彼が爲ようと決心した仕事には第四階級の力が必要である。が、其の力は憎惡と破壞と死を通して得るので、そして彼は彼の仲間が幾人死んでもかまはない。所謂第四階級の半分が死んでしまつても無頓着なのだ。即ち、何億萬の人間が犧牲となつて何百年の間一生懸命働いて築き上げた露國精神と云ふ岩に頭を打つつけて露國民の半分が死んでしまう。そして殘る半分はどうすることも出來ない奴隷になる。彼等は決して夢にも思はなかつた奴隷となつてしまつた。

　其處で、レニンは彼の外科のナイフを悠々と前掛で拭いて、そして、云ふ。『先づ診斷は間違つてゐなかつた。治療もうまく行つた。併し、死後解剖によると、治療がまだ早過ぎたことが分つた。まアもう三百年待たう』と。



何が流行の浪を造るか

デモクラシー即ち平等と云ふ思想は今日の世界を揺いてゐる大思想でありますが併し、此處に一つの矛盾があります。と云ふのは、人間には一種の氣風があつて、それが人と同じであることを好まない、自分は、一般人と違つたものでありたいと常に勤めてゐます。そして、それがいつも流行のさきがけとなつてゐます。たとへば一般人の着てゐる着物では興がないからと云ふので目先の變つたものをと工夫をこらします。すると、又、一方には模倣と云ふ同じように強い力があつて、直ぐに其の新しいものを眞似ます。ですから、眞似をされまい、眞似をしようと云ふ二つの力が流行と云ふ渦を造つてゐるのです。

併し流行と云ふことは階級制度の色彩が濃い處には割りあいに少ないものです。と云ふのは階級がある處には身分々々の分限と云ふものがあるからです。けれども世の中が平等となつて來るに從つて、殊に、國民の人生觀が唯物主義に傾いて來るに從つて流行は益々盛んになります。人は精神的に平等を感ずるのみならず、物質上も亦模倣がしやすくなるからであります。且つ又、生產の方法が巧妙になりますから、お召が流行ると云へば新お召が出來る、大島が流行すると云へば何々大島と云ふように。

國民の智力の成長が益々人と違つた風をしようとする慾望を盛んならしむると、同時に又これを追ひかける方法も共に進歩するのでありますが、併し、此の流行と云ふものに社會的利益があるものかどうかを私は少しくこゝで考へて見たいと思ひます。

第一に私共が承知してゐなければならないことは流

行は進歩ではありません。流行と言ふものに定義を下しますと流行とは人々の選擇の折り〱の變化の連續であります。時によれば有益がそれに伴ふこともありますが、併し有益が目的ではありません。以前のものよりは効果があると云ふ理由で流行になるものでないと云ふ事實が進歩と流行とを區別してゐます。進歩は必ず前のものよりも有益であるに反して、流行は有益と云ふことを常に無視してゐます。ですから、流行はそれが一般になつて普通のものになつてしまうと、すぐに變つてしまうものです。萬年筆や電燈が一般に用ひられるようになつてもこれは流行の仲間には這入りません。これは進歩であります。進歩は有益の線に從つて來るものであつて、そして、決して後へは歸りません。これに反して流行は時々もとへ歸つて行きます。女の着物、髪飾りなどはぐる〱廻つて又もとのものが流行して來ます。

要するに流行は單に外部的のものであるに反して進歩は外的のものであり同時に内的のものであります。人は一般に新しいものにひきつけられます。そして、流行ものは美しいと思ひます。目新しいと云ふことが人の感じに餘裕を與へるのかも知れませんが、もう一つは人並みの風をしてゐれば氣がひけないと云ふことによるのであります。氣がひけないと云ふことが或る程度迄は人々の趣味をかたちづくつてゐます。ですから流行の美と稱するものは大抵は一時的で假物であります。一時的のそして假物である美を購うために、よくありがちなことですが、全精力を費すと云ふこと、それに引きづられて行くと云ふことは淺ましいことではないでせうか。そして、又そう云ふ人々をひきづるために産業が盛んになるのかと思ふと産業も案外つまらないものであるやうな氣がします。

その精神が徹頭徹尾デモクラシーである亞米利加人でさへ理智では他國の上流階級を批判的に見てゐながら、實際生活には矢張り他國の上流を模倣し、其處から流行を造つてゐます。一例を擧げると、一度英國の女皇ヴクトリヤの夫プリンスアルバートが米國を訪問したことがありました。その時、船の到着時間と歡迎の宴會に出席される時間の間に少しも餘裕がなかつたために附添の所謂衣服係りが火熨斗を出してゐる暇がなかつたので、プリンスはたゝみ目の付いたまゝのヅ

ボンをはいて宴會の席に出席されたのです。處が、これが直ちに男子のヅボンには折目が無ければならないと云ふことになつて男子のヅボンにはあのまつすぐな筋が兩方のヅボンの眞中に付てゐなければならないやうになつてゐます。もう一ツ、これは英國であつたことですが、ウエルスのプリンスが觀劇に行く時、時計を忘れました。いつもチヨツキの上に光つてゐる金鎖が見へませんでした。すると、二幕目からは凡ての觀客のチヨツキから時計の鎖りが皆ひつこんでしまつたと云ふことです。實に滑稽ではありますが流行と云ふものはこんなようなものなのです。

亞米利加の男子の流行は倫敦から來ます。そして婦人の流行は巴里から來ます。ですから、婦人服の仕立屋は毎年巴里へ行つて來なければならないようになつてゐます。前述のプリンス達が流行を遣つたのは、これば個性を貴ぶために他から自分を區別しやうとして新しいものが工夫され、そして、それを一般人が模倣して流行になつたのとは動機は違ひますが併し流行となつて現れる現象に變りはありません。

昔と違つて現代の流行の特長を擧げて見るなら、第一、現代に於ては無數のものに流行があります、衣服、髪飾、履物は勿論、傘、杖、名刺、用箋、手さげ、家具、化粧品、家屋に至る迄。第二の特長は昔は流行と云つても一都會乃至一階級に限られてゐたものですが今は地理の差別も階級の區別もなく、一時に一種が流行します。

第三の特長は流行の變化が非常に早いと云ふことであります。流行の浪は凡ての階級を掃くのみならず、その面積は全體に渡ります。上流社會が下級社會の模倣から逃れようさして工夫すればする程それだけ流行の浪は烈しいのです。その流行の浪に乘ろうさしてあくせく精力を費すことはあまりに馬鹿々々しいことではないでせうか。

けれども、この流行のタイラニーを破壞しやうとする力も亦なくはありません。一般人は上流社會に同化しやうとして流行に從ふのでありますが、併し、其のうちの一種の人々は自分が目立つのを嫌つて止むを得ず流行に從つてゐます。この種類の人々は目だつことを嫌うのですありますから流行に從つた處が最少限度であるし、しかも最後迄從ひません。そう云ふ人々は

贅澤には勿論反對しますし度々の變化にも反對します。この種類の人々が始終流行の浪に反對してゐるのであります。

獨立の考へを持つた人、本當の趣味のある人、健康と安慰を本位とする人の數がふへる度に從つて、普通人を煽つて止まない流行を押へる力が增加します。髮を妙に出つぱらせたり尖んがらせたり、背中へ帶の山を造つたり、顏を變に塗つたりすることは遲かれ早かれ少なくなつて行くと思ひます。なぜなら、智力と常識の平面がだん／＼高くなりつゝありますから、つまり獨立な考へをもつた人が澤山できれば馬鹿氣た流行は必ず撲滅されます。不條理な流行を人が認めないやうになればそれだけ又流行の勢力も減る事になります。外形で人の價値を定めず、むしろ、人の功績と內部の價値によつて人を見ることが自然と人の模倣に汲々する氣持らを鈍らせます。

昔は女よりも男の方がむしろ流行に從つてゐたのに今日では男の模倣性は女よりも少なくなつたと云ふ事實を私共は考へなければなりません。そして、それにはいろ／＼の原因もありますが、その最も大きな原因は男子が獨立の思想をもつやうになつたからであります。今日我か國の婦人を始め、外國の婦人迄もが流行を追ふて滿足して居る間は、到底、婦人の眞の解放は望まれないと思はなければなりません。なぜなら、それは彼女等に獨立の思想のない表現であります。婦人解放の叫び、生活改善の叫び、殊に服裝改良の叫びがなか／＼盛んではありますが、併し婦人に獨立の考へが出來る迄は先づ、成功は覺束ないのであります。彼女等が流行の奴隷になつてゐると云ふことは解放されないと云ふことであります。

衣服の改良と云ふことも本當の改良つまり進歩でなくて却つてそれが流行となる恐れがあります。一定の衣服を一般に用ひさせようと云ふやうなことでは改良は難しいと私は考へます。その折り／＼に最も適した着物を着よう。最も合理的な着物を選擇しやうとする人々の獨立な考へが出來て始めて衣服の改良は實現するものだと私は考へます。

大音樂者の資格が主婦に必要



此の世の中で何が重要であると云つて家庭婦人の仕事程重要なものはないと云ふ事を私は度々申しましたが其の家庭を圓満に司り次代の國民の養成所として、適當なものと爲すためには主婦は大音樂者の資格がなければならないものであります。もし、一家が單に夫婦と子供だけで成立してゐる場合には、比較的簡單でありますが、親があり兄弟姉妹がある場合には此處に主婦の音樂的手腕が必要になつて參ります。

何處でも娘の縁談と云ふことになると氣樂な生活を望むあまり係累のない人を夫に選みたがるものでありますが、これは大局から見て決して喜ぶべき傾向ではありません。世人が全く利他主義な人間になつて他人の親も自分の親も區別なくとにかく若いものは老人の世話をしなければならぬものゝやうに、それを一ツの信仰とするようになれば差し支へはありませんが、人間がまだ其處迄利他的になり得ないで、他人の親と自分の親との間に感情の違ひがある間はどうしても、實の子が實の親を見るに如くはないのです。そんならば妻は夫の親を我が親とし、夫は妻の親を我が親と思ひ、子としての責任を全ふすることにつとめるのが最も至當なことであります。

其處で主婦の音樂的手腕が必要になつて參ります。日々の生活の上に愛する夫、子供、又は自分の生みの親が打ち出す音調をまとめて、其處に一ツの調和を造

ることは比較的容易でありますが、自分の生みの親のように自分に親しみのない夫の親が打ち出す音調は餘程調子の變つたものであるに相違ありません、其の變調は扱ひにくい、まとめることが出來ないからと云つて、それを取り去ることを考へたり、又は、自分が身を引くことを思つたりしたのでは、それでは音樂者となりそこなつた落第生であります。

　幼稚な音樂程單調です。けれども、大音樂になると必ず變調がまじへられます。變調が這入らなければ色彩が濃くならないからであります。

　で、私は新時代の婦人方が幼稚な音樂に滿足して、小さい人間で終ることの代りに、大音樂者となる資格を遣つて見ようとする意氣を持たれることを望んで止みません。そして、其の大資格を養成する學校は家庭それ自身であり、學課は日々の生活の實驗であることを此處に附け加へて置かなければなりません。

　一體、人間の大きい、小さいと云ふとこは其の人の持つてゐる愛の大小によるものだと云ふことを私は昔から考へてゐましたし、本誌に於て一度云つたことがあります。つまり、自分を忘れて夫を愛することが出來れば自分は自分一人よりも二人前大きくなつたのであり、子供が出來て其の子供を愛することが出來ればそれだけ自分が大きくなり、夫の親兄弟を愛することが出來れば、又、それだけ、隣人を愛することが出來れば、又、それだけ、一國を愛することが出來れば一國だけ、世界を愛することが出來て、世界の幸福のために自分を忘れることが出來れば、實に、世界を自分の懐に入れることが出來るだけ、大きな人間であると云ふこと及び、愛する以上は實力が伴はねばならないこと、唯、漠然と愛すと云つた處がそれだけでは何にもならないと云ふことを。

　老人が若い者に干渉すると云ふ苦情はよく聞くことですが、併し、私共が考へて見なければはならないことは、老人はたとへ其の頭こそ固陋であつても、とにかく、實際生活には自信があります。曲りなりにも國家の基礎になつてゐる家庭を調へて來たものは、若い女が蔑視してゐる古い女であります。これに反して若い女は多少頭は進んでゐるとしても古い女だけに實際生活上の能力をもつてゐません。いゝかげんな理窟を云つてゐても手足は動かないのであります。であります

から、若い者の頭の動き方を理解できない舊思想の人には今の若い者は奇怪な生意氣な半端な人間に見ゆるのであります。

と云つて、今の若い婦人に舊い女の型に從へと云ふのではありませんが、併し、今の若い婦人は老人の干渉の餘地がない處迄自分の能力を造る必要があります。老人が普通の人である限り、其の老人を滿足させること位ひは大したことではないのです。要するに家事をキチンときりもりして置けばよいのですから。

今の世の中は凡てが專門的になつて行きます。商人は商業のこと計り、勞働者は勞働のこと計り考へなければならないので公平にものを見る人間がだん／＼少なくなつて行きます。こう云ふ時に當つては猶更ものを公平に判斷する頭腦と、舊柄な思想の持主でも何んでもを抱擁して一ツの調和を造り出し得る廣い心、大音樂者の資格を備へた婦人が必要であります。

（二十八頁よりの續き）

無能であつた。けれども、以前からあつた經驗と常識で其の不完全な法律を補つてゐるのである。

そして、これは、どんなに不恰好に見へても不便に思へても、人間の長年の經驗が造り上げたものには何にか其處に拾て難い生きたものがあり、これに反して、理論のみによつて造つたものは一見どんなに完全に思へても必ず大きな缺陷があるものだと云ふことの一例である。

要するに問題は、制度其のものでなく、一般國民が其れを利用する能力があるか無いかである。そして、私共はカルビンのジエネバの施政の失敗を忘れてはならない。



男子の不貞操に就て

私共が亞米利加から歸る時には同船者が三百人餘りもありましたが、船がいよ／＼明後日は横濱へ着くと云ふ日に其のうちの幾人かが『たとへ、二週間でも大海洋の上でこうして運命を共にして來ながら一たん上陸すれば日本の北の果てに行くもの南の果てに行く者があつていつ又逢ふことがあるやらないやらことによるさこれぎり絶對に逢ふ事が出來ないかも知れないから、横濱で皆一ッ處に集まつて別れの盃を取りかはそう』と云ひ出しました。そして其の會の世話役に選まれた人達が私の夫をも勸誘に來ました。

『一體、その會と云ふのはどう云ふ處でやるね？』

と私の夫は尋ねました。

『さあ、やつぱり料理屋ですね。』

『僕は料理屋へ行くのは嫌ひだ』

『併し、日本へ御歸りになつた以上は日本の習慣さ云ふものがありますから、そう頑固な事を仰有らないで。』

『料理屋の酒を呑まなければ日本には居られないと云ふなら、僕は此の船ですぐ又亞米利加へ歸へるよ』

と云つて、夫は美事にその世話役を擊退して以來十六年が經過しましたが、まだ、一度も私の夫は料理屋の酒を呑んだ事がありません。こう云ふ氣質の夫と交際する人は矢張りそれに似た氣風をもつた人達です。藝娼妓にたはむれる事を茶飯事と心得てゐるやうな者は語るに足りない人間としてこちらでは排斥致しますし、又、向ふではこちらを變人扱ひに致しますから、とても交際は出來ないのであります。

妻以外の女に接近する事は殺人よりも大きな罪悪で

あると考へて居る清潔な空氣の中に長年生活して來た私はともすると、世の中にはあまりに不品行な男が澤山あることを忘れがちになります。そしてたま〳〵自分の夫の不品行を訴へる婦人に出逢つた時には、『たとへ自分の夫であるとは云ひながらも、今が今迄現に外の婦人と手を引き合つてゐた男をどうして自分に接近させる事が出來るだらう。』と私は不思議な感じが致します。その婦人の心のうちを悲惱と云つてよいか、不見識と云つてよいか、憐れまうか、憤ろうかと、私の心は無茶苦茶に混雜します。そして、そう云ふように妻以外の女に接近した男を『きたない』と感ずるのは清潔な空氣になれた私の潔癖か、つまり私の偏見であるかしらと考へたこともあります。けれども、それは偏見ではなく、それが正しい見方であると云ふ證據を私はすぐに思ひ浮べるのでありました。

と云ふのは妻が夫以外の男に關係したり、又は、腕力をもつて犯されたりした時には、その妻はもう汚れた女として、妻として價値のないものとして取り扱はれて來ました。そしてこれを其のまゝ男に應用しやうとする事は餘りに當然なことであろうと私は考へるのでありました。

今日迄、虐げられてゐた女を引き上げるために、男女平等な權利の要求の一として男子に女子と同程度の貞操が一派の婦人論者によつて主張されて參りました。それは差し支へありません。けれども男子と平等な自由を要求して、男がそうなら女もこうすると云ふような風もなくはありませんでした。先々月山梨縣へ參りました時に、當地方へもそう云ふ風が這入つて來たと云つて教育當局者達が憂へて居られましたが、その一つの例は當地方で有力な人がしきりに料理屋や待合へ出入りして藝者とたはむれて居るとその人の奧さんが負けない氣になつて御亭主の向ふを張つて藝者をあげる。すると土地の若い娘達が『あの奧さんはよくやつて下さつた、實に痛快だ』と云つて喝采してゐると云ふのでありました。

併し、今日迄、大多數の男が戀愛と結婚を一生に於ける一挿話と見て、云はうようない不品行であつても婦人の方が戀愛と結婚を人生に於ける重大事と見て自分の一生の運命を戀愛と結婚に賭すと云ふような意氣込みがあつたので、次代のためになくてならない家庭

を不完全ながらも支へて來たのでありますが、もし、婦人も戀愛と結婚に對して男と同じような態度に出たならば、一體、家庭はどうなるでせう。從つて國家はどうなるでせう。

人類の半數である男だけが戀愛と結婚を重く見ないだけでも社會には隨分不幸が絶へません。もし、女が男と同じ態度に出るならば不幸は通りすぎて社會の全滅と云ふ事になりませう。女が今の一般の男の態度を眞似ることは正が不正に降參する事になるので、そして、不正の上には何にも榮へないのが理の當然でありますから。

此處で、要は、どうしても男の貞操觀を女の貞操觀に迄ひき上げなければならないのです。

私は不品行な男子に反省をうながす一つの手段として、私共の日々の生活上、交渉しなければならない人に品行方正な男子を選まうと思ひます。つまり、米も炭も呉服も醫藥も品行方正な人からの供給を受けやうと心掛けて居ります。私宅へ出入りする男の方でも、もし、その方の品行が亂れてゐる行跡が擧がるならばその場で出入りを御斷りする方針を取らうと思つて居ます。そう云ふように考へてゐますから婦人が選擧權を得た曉には先づ第一に品行方正な候補者に婦人は投票する、もし、そう云ふ理想的候補者がない場合には婦人の力で理想的候補者を造ると云ふような方針を皆様が御取りになる事を私は御勸めしようと今から考へて居ます。

世間に對してはそれでよろしいとして現に自分の夫が不品行である場合には、理想としては、又、現に私の實感はそう云ふ夫は全然排斥して、今日迄不貞な妻に對して夫がとつた態度を其のまゝとつて、斷然離婚すべきでありますけれどもそれは唯私の感情であり、世間にとつては一つの理屈であつて、世間の感情はまだ／＼其處迄來てゐないやうです。又、事情がそれを許さないやうであります。且つ又、不品行な夫を斷然排斥する事の出來ない もう一つの要素があるやうです。例をとつて申ますなら、或る自覺したと稱する多少智力的な婦人の夫が其の婦人を差し置いて他の婦人に關係した時に、全く因習的でない盲目でない其の婦人は斷然たる處置を取るであらうと私が期待してゐたに反して其の婦人は夫が外の女に心を向けて行けば行

く程自分は夫に心をひかれたと云ふことでありましたが、私はそれが一般婦人の心理狀態である事を想像しました。又、もう、一つには婦人は全く經濟上の力がないので止むを得ず泣き寢入りになる場合も少なくない事をも認めますが、併し、此處に私共の研究しなければならない又努力を要する點があると私は思ひます。

男は不貞な妻をまるで弊履を捨てるやうに捨て得るのに、女は不貞の夫を捨て得ないでグヅ／＼してゐると云ふのは、女に經濟上の力がない計りでなく、一般の空氣がそれを普通の事のやうにして居るからであります。どんなに虐げられても服從してゐるのが婦德とされて居た其の氣持ちが女の血の中に喰ひ入つてゐるからだと私は思ひます。もし、エレンケーの『いくらでも替りのある紙幣の贋造が重罪に處せられるのに、かけがへのない婦人の生命にかゝはる程重大な事である計りでなく、其の惡德が子孫に迄も影響する愛の贋造を何故國家は處罰しないのであらう』と云ふ言葉が多くの婦人の頭にピッタリ這入つて、そして、それが婦人の感情になるならば、昔、婦人が死をもつて自分の貞操を守つたと同じように死んでも不貞な夫との同棲を拒むようになる、又、そうならければならないのであります。

夫の不品行に苦しむ妻は、苦しめられるのは單に自分計りだと思つて居てはなりません。第一、自分と一所に子供が苦しめられます。又、自分の同性が弄ばされてゐます。夫の不品行は永い間虐げられてゐた自分の同性の敵であると云ふ觀念をしつかり握つてゐなければなりません。女の感情が其處迄進んで同性相保護し合ふ事によつて男の放埒はいやでも應でも矯正されて行くと思ひます。

今も云つた通り、死んでも不貞な夫との同棲は拒むと云ふ婦人の意氣が私の理想とする處であります。けれども、そうするとかたつぱじから十中の八九迄の夫婦者が別れなければならない事に今日の狀態ではなるでせう。そうなつてもかまはないとも思ひますが、併し、ずつとゆづつて、もし、夫の不品行が一時的の物であるならば一應忠告もし、反省もうながして見て、それでもきかずに其の不品行を續けるやうならば其の時こそ斷然離婚の請求と云ふ事にしなければなります

まい。

國家が婦人の婦人としての職務、殊に、母の位置にある婦人の重要な任務を認めてゐるならば不義な男を充分制裁して母子の生活の安全を第一に計るのでありますが、併し、今日の處では爲政者それ自身の性的道德が皆怪しいのですから男の不品行、並びに妻子の離義は見て見ぬ振りに過されて居るのであります。こう云ふ時でありますから猶のこと今日の婦人はしつかりしなければならないのであります。もし、子供がある場合には子供と一所に餓死する迄も不正な夫との同棲は拒む、腐敗した空氣の中には我が子を置かないと云ふ意氣が欲しいものです。又、其の意氣があれば決して餓死する事もありません。又子供のためにも腐敗した家庭で最高な學問を授けられるよりも、學校の門はくゞらなくとも正しい實意のある母の手で眞面目な生活を味はせた方がどれだけ立派な人間が出來るか知れません。たとへ、一人でも悪習慣に染まらない人間を造る事が私達婦人の義務であり、又喜びでなければなりません。

要するに今迄社會良心と云ふものが女の不貞に對しては全く鈍感であつたのであります。その鈍つてしまつて居る社會良心を私共はこれからひき起さなければならないのであります。そして、それには感情の組織が必要であります。理屈許りでは人は動きません。『善人のために死ぬ人は多いが理智の人のために死ぬ人は少ない』と云ふ言葉がありますが、これは『善人の云ふ事は人がきくが、理智の人の云ふ事は聞きながしにされやすい』と云ふことであります。善人のためには人が喜んで犠牲を拂つてくれるのであります。これを又例を擧げて云ふなら、夫の不正に泣く婦人が理智に訴へて法律沙汰にするよりも、自分の主義を固執すると同時に夫と離れ、そして、克苦して子供を育てゝ居るならばそれが則ち善人の行爲で社會の同情をひき起さずにはゐません。男の不正を憎む社會の感情が豐富になります。

又、善と理智とは車井戸の二つの台瓶の釣うな物で情の方が一杯ならば理智の方がからつぽうになるし、理智の方が一杯ならば情の方がからつぽうになると云ふ言葉があります。で、今迄社會改良運動が成功しなかつたのは理屈からわり出した物であつたからだと云

はれて居ります。ですから、今、男の不品行を矯正するに付いてもそれに對する社會の感情を豐富にし、それを組織し權威あるものとしなければならないのであります。そして、そうするには進歩的思想を社會につぎこんで社會良心を造り直さなければならない、これが今日の私共婦人の使命であります。

要するに社會の改良は社會に道德的の感情則ち社會良心が漲つて來なければ成功しません。そして、有効な社會良心には二つの要素があります。その一つは權威ある保守的な過去尊重と、そして、もう一つは批評的な因習破壞的な、そして、未來を目的とするのであります。

事をとることを每日の仕事としてゐる私は一國の會計、一國民の生活が規定される議會に常に注意を拂はう、時々は樣子も見に行かうと思ふ。處が、實際には半日の暇をつぶして行く氣にもなれないし、又、政治に關する新聞の記事さへもいい加減の處で投げ出してしまう。なぜだろう？

世界各國の議會が殆んど、皆、國民の信用を失つてゐるのであるから、政治家達が此の事實に一度氣付いたならば馬鹿な眞似は出來ない筈であるのに、依然とつまらない人を馬鹿にしたような見識に等しい、見へすいた黨派爭ひをしてゐるからである。どうして男はあんなに喧嘩がしたいのだろう。これが二十代の青年達なら血氣にはやつて、とでも云つて笑つて居られるけれども、もう孫も澤山ある六十以上の老翁がいきり立つて、お互ひの弱點と思へるものをあばき合つて得々としてゐる處を見ると、男と云ふものは永久に頭の熱す時のない、惡戯小僧であるものかと私は思はずには居られない。

K先生

原田琴子

私は今でもK先生を忘れることが出來ません。私はその頃故郷の小學校の尋常科生徒の一人でした、そしてK先生は高等科の方の主任なのでした。K先生はどちらかといへば口數の少ない、重々しい方でしたので尋常科の生徒でない私はめつたに先生とお話した事もありません位でした。めつたにどころか、直接先生とお話した記憶は今一つもありません。それなのに私は不思議にも先生のことが忘れられません。ともすれば懐しく想ひ出されます。一日の仕事を終へて寢床へ入らうとする前一寸の時間に火鉢により添うた時の心やひとり淋しく夕暮の途を歩く時の心やにいつかK先生の面かげがうつとりとしのび込んで來るのです。そして私は丁度芳ばしい草花の匂いでもかぐやうな氣持でしばらくは何もかも忘れて甘い快よい、そして寂しい感情の中に浸ります。K先生――先生はとつくにこの世を去られました、××の戰役の際に名譽の戰死をなさいました。もし今までこの世にゐらしつたのでしたらお幾つ位におなりでしたらうか、どんなに親しみ深い、いゝ老先生におなりでしたらうか――いゝえさういふ考へ様をする事はK先生にふさはしくありません。私の記憶にいくつかの挿話のヒーローとして殘つて居ますK先生の俤は決してそんな想像を描かせは致しません。なんでも春の美しく晴れた日であつたやうに思ひます、先生は運動場の隅の垣ぎはに立つて身動

きもなさらずにじつと空を眺めてお出ででした。黒い洋服をつけた小柄な、若い、K先生の姿――その頃まだ小さかつた私はどこからかそれを認めたのでありました、そして今K先生のお話を致さうとしますに當つてあり／＼と思ひ浮んで來ますのはその時のその先生のお姿なのであります。

高等科の男生の體操の時間でした、上衣を脱いだK先生は運動場の廣場で驅け足の號令をかけてお出でした、五月初旬の午後のことでうつすりと霞んだ空からはかなり強い生温かい風が流れて居りました。運動場の頃の向ふのはろ／＼とつゞいた廣い田圃の空にはいくつかの大凧小凧が舞ひ揚つて物狂はしいやうなうなり聲をひゞかせて居りました。（私の故郷では五月のお節句に大きな凧を揚げる習慣があるのでした）その時一つの流れ凧が凄まじい勢ひで風を切りながら運動場の方へ流れ落ちて來ました、それは金太郎を描いたかなり大きな凧でした、太い幾すじかの糸が白く空中に流れました。ところで生徒の先頭に立つて一緒に走つてゐましたK先生が丁度休めの號令をかけた時でした、凧はK先生や生徒達の頭上へ恐ろしいうなり聲を立てゝ落ちかゝつて來ました。それはほんとうに間一髪といふあやうい一瞬間でありました。K先生は雨手を擴げてまつすぐに凧に向つて進みました、あれといふ暇もなく凧は一層低く落ちました……

血の滴たる顔を片手でおさへて平然と事務室の方へ歩かれる先生の姿をその時私はどこからか眺めたのでありました。先生は皆の手で介抱されましたでありませう。凧は運動場の片隅に何かの亡骸でもあるか

のやうに横はつて居りました。

「先生は偉いなあ、この大きな凧をすぐ自分で引き抜いて投げ出してしまつたぜ」

男の生徒はかう語り合つて居りました。

その頃日本とRとの戰爭が闘はれて居りました、Rの要が塞なか〳〵落ちないといふ噂のやかましかつた時分でした。K先生は出征されることになりました。學校では一場のお別れの會がありました。

その朝全校の生徒は運動場に集められました、オルガンも外へ出されて、そして女の先生が君が代を彈かれました。校長先生は前へ出て、K先生が戰さに行かれるやうになつたこと、先生とのお別れは悲しいが然し御國のためと思へば止むを得ないこと、否それどころか御國のために働かれる折の愈々來たことをK先生に對して祝はればならぬこと、皆で萬歳を唱ふべきことなぞを云はれました、その次ぎにはK先生が御挨拶をなさいました。先生は平常にも増して重々しい、そして沈痛な様子をしてお出ででした、「私は必らず生きて歸りません、皆さんとはこれが一生のお別れです、どうか勉強してよい人になつて下さい、私はたとひ死んでも皆さんの幸福を祈ります。」なんでもかういふ意味のことを云はれましたがその先生の言葉は妙に强く私の心にひゞきました、私は何ともいへない寂しい想ひがしたのでありました。全校の生徒は町の外れまで先生をお送りしてそこで萬歳を三唱してお別れを惜しみました。ほんとうにそれは先生との永別なのであ

りました。

Rの要塞はなか／＼落ちませんでした、幾度か決死隊が造られたといふ事を私は人々の話の中に聞きました、自分で新聞を拾ひ讀みしても知りました。

K先生が出征されてから何ヶ月位後でありましたらうか　それは覺えて居りませんが私はある日學校でK先生の戰死されたこと、R攻擊軍のS隊の一人として華々しい働きをされたのであること、早速金鵄勳章を授けられたこと等を隣村から來てゐる同級生に聞きました。K先生のお宅は同じその村にあるのでありました。私は「必らず生きて歸りません」と云はれた時のK先生の悲壯なお樣子をあり／＼と思ひ出したのでありました。戰爭の光景などについては想像のしやうはありません。けれどもこの故鄕を去つて行かれる時のK先生のお心、烈しい戰ひの最中に戰死される時のK先生のお心、それを私はひとりで靜かに想ひ描かうと致しました。生きて歸らないと決心されて、そしてその決心通りに死なれた先生が私はしきりに慕はしくなるのでありました。

先生のお葬式にはやはり全校の生徒が課業を休んで隣村まで行きました、この邊の普通のお葬式には見られないほど澤山の旗や造花等がありました。お坊さんも三四人は居りましたでせうか、會葬者の數も大勢でしかも立派な――村の重立つた人々が集まつて居りました。村長や村會議員や校長先生等の吊辭が順々に朗讀されました。「噫悲しい哉」といふ言葉が幾度も耳に聞えました。

ながい〳〵讀經がすんでお葬式の終る時分には日はもう暮れかけて居ました、家へ歸るのには小一里もの田圃道を歩いていかなければならないと思ひますと私は急に寂しい悲しい氣が致しました。校長先生は生徒一同にめい〳〵こゝからすぐ家へ歸ることを許されました。尤も必らず四五人づゝの連を造つて、上級生がついてゆくやうにと注意されましたが。私は近所の親しくしてゐる友達連と一緒に黄昏のうす暗の中を夢中になつて走りました、西の空の最後の夕燒の色までも氣味惡く目に映りました。その時私はK先生が戰死されたといふRの山野の空にもやはりこのやうな夕榮があつたであらう——とふと左樣思つたのでありました。K先生、先生はもうどこを探しても居られない、——これを事實だと知つて居ながらもなほ噓のやうな氣がしてなりませんでした。

それから後、私は死といふ事について考へることがこれまでよりもずつと多くなりました、K先生は死なれた、だからこの世の何處にも居られない——これだけの事實を受け容れて、これを當然の事と考へてすましてをくことが私には出來ませんのでした、幼ない私にとつて死は不可解なものでした、けれどK先生はちやんとそれを自覺してゐらしつた、まだ日本に居る時から死を知つてゐらしつた、では私にも知ることが出來るのであらう　　と私は考へました、けれどたゞ考へるばかりではいくら考へてみても何も知ることが出來ません。算術の時間や讀方の時間なぞに私は紙石盤かまたは讀本を屛風のやうに立てゝその中へ顏を埋めるやうにして思ひ耽るのがいつか習慣になりました。ある時はこんな事もしました、靑々とした葱やみやこ

草なぞを探つてそれを運動場の隅の人目につかないやうなところへそつと埋めてをき、そして幾日か後に好奇心に驅られながら堀り出して見るのでした、葉は黑づんでぐつたりとしてゐました、「草は死んだのだ」私は左樣思つて死といふものを幾分か知り得た一種の滿足を感じたのでありました。そしてその時私は戰地から送られた遺骨を納めたのだといふK先生の小さな白木の骨箱を思ひ出さずに居られないのでした。

其後學校の運動場に戰捷の紀念碑が建てられました、その「忠勇」といふ碑銘はあの名高いN將軍の書かれたものでありました、故郷へ歸つて昔學んだ學校の門を訪れる毎に私はその紀念碑をつく／＼と眺めます、そしていつもK先生を想ふ心を一層深くするのでありました。

我が國の婦人も此の頃政治に興味を持つて來たことは事實であるらしい。今年の議會の婦人傍聽席は殆んど每日滿員以上の盛況であつたと云ふ。併し一時の見學としてゞはなく、觀物（みせもの）を見るやうな氣持ちでなく、議會の不始末を見て終るのでなく、あの不始末はどう云ふ處から出てゐるかを研究して欲しいと思ふ。私共婦人は今の政治家の態度を嚴密に批評的に見て、後に、決して彼等の足跡を蹈まないやうに注意すると同時に、永久に惡戲小僧である男の頭を熟させる方法に出たいと思ふ。議會傍聽を唯見物としてゞはなく國民生活に觸れる覺悟で行かれることを私は望んでゐる。

教育社會學講話（第二回）

人間生來の傾向

シルレルルースペンサーの剩餘精力論に依ると、人間は餘まつた精力を費ひ盡したいために何にかの遊びをします。けれども、もし、其の遊びと云ふことが單に精力を費したいと云ふこに止まつて、外に何にも意味がないならば其の遊びには何等のかたちが無い筈です。處が、實際には、其の遊びと云ふ活動のうちにはいろ〳〵なかたちがあります。そして、其のかたちが其の遊びの性質と起原とを思はせます。つまり、其のかたちが本能的の活動に似て居るのであります。たとへば、男の子の遊びには狩獵や爭鬪的な本能が含んで居ますし、女の子の人形を持つて遊ぶのなどは母性の本能から來て居るのであります。

凡ての生物がそれ〳〵の特種の活動を爲すように生れながらに定まつてゐるのであ

ります、そして、それ等の凡ての活動の背景には生活の過程を保護し、維持するに必要な行爲が第一となつてゐます。そして、或る種類の動物には體の構造のうちに、其の生活を保護し維持するに必要な行爲が既でに用意されてあります。神經組織の構造のうちに既でに用意されてあるのですから、必要な場合には敎へられずして、反射的行爲となつて現れるのです。

人間の生來の傾向の研究は生物學、殊に、心理學の問題であります。で、ジエームス博士は、人間の二十八種の特別の本能と九つの第二位の本能とを擧げて、そして、次のように結んでゐます。

「本能の此の區別を多すぎると云ふ人、又、少な過ぎると思ふ人もあるだらう。本能の境線は其の次に位ひする反射的行爲のうちに消へてしまうこともあるし、又、其の上に位ひする獲得性になつてしまうこともある。であるから、本能と云ふ階級の下にどれだけのものを含めていゝかは難しいことである。從つて、反對論も出るわけである」と。

人間性に關する材料は心理學から供給を受けねばならぬものでありますが、同時に、

社會學は其の材料を一層單純に並べ直す必要があります。そして、社會學は、社會を動かす要素として次の五ッの人間生來の活動の傾向を擧げてゐます。

一　物質上の要求

自己保存のため、第一に衣食住が要求されます。衣食住の要求が最も力強い活動となります。其處から、産業及び商業企業の形式となつて社會の組織が始まります。ものとものとの交換となり、又は、ものと勞働との交換となり、同時に交換の仲立、價値の衡として貨幣が工夫されます。人間活動の此の現象を科學的に研究することは實は經濟學の範圍に屬するのでありますが、併し、此處にも亦社會學は社會學の材料としてこれ等の事實を選擇して解釋しなければならないのです。

二　家庭本能

生殖の本能は勿論種を保存するためです。哺乳動物、及び、哺乳動物以下に屬する動物に於ても、種の保好は性的本能によつて用意されてゐます。そして、此の本能は親の愛に補充された時、最も古い、變化なき、そして、至る處に存在してゐる社會の

一形式が出來ました。其れが家庭です。

『最下級な言葉につめて云ふと人間の活動は、遊び、食ふこと、家庭と云ふことにな つてしまう。つまり、元始時代の人間は遊んで、食つて、一家を造る動物であると定 義を下すことが出來る。』とジャストロー博士は云つてゐます。

『凡ての人間の第一の興味は生きることであるが、其の生きると云ふことのうちには 性的の興味と食物に對する興味とが同じ階級に並べられてある。其の力強いと云ふこ とと、其の重要と云ふことに於て、これに接近し得る第三のものがあるかどうかは疑 はしい。』が其の外の凡ての積極的なもの丶身體に關する興味を私は勞働興味と云はう とする。そう云ふ言葉が適當であるかどうかは分らないが、併し、此の勞働興味と云 ふことによつて腕前、或ひは、熟練を表はそうとする衝動を意味する。そして、其の 中には子供のいたづらから現代の最も進歩した運動競戯迄をも含める。で、此の食慾、 性慾、勞働慾と云ふ三つの興味が人間の興味の一つの類となつてゐる。そして、それ を名付けて健康興味と云ふことが出來る。此の健康興味は要するに人間が自分の腕力

を享有する慾望を意味するのである。』とスモール博士は云つてゐます。

家庭生活は、社會のために大きな役目を持つてゐるもう二つの人間の生來の傾向、則ち、群居と云ふことと、親切と云ふことを發達させました。大抵の心理學者は此の二つの傾向をも本能と云つてゐます。

三　群　居

これは一種類のものが一所に住まうとする傾向です。動物でも、鳥類でも、魚族でも、又は、昆蟲のやうなものでも一つ所に集まつてゐる傾向です。動物のみならず植物にも此の傾向があります。

一個の生命は一個で終るけれども、種の生命は續かなければならない。個人には兩親があり、そして、其の個人には子があります。其の結果は、一地方が支へ得るだけの人間が其所に集まつてゐます。ですから、人間は自然の環境と調和しなければならないと同じように、同族とも調和して行かなければなりません。そして、お互ひに相頼るようになります。或る種族は食物を得ること子供を育てること、自分を保護する

ことを、自分自身に依らないで自分が屬する團體に頼つてゐます。一人で居れば不安を感ずるが、大勢で居れば滿足出來ると云ふのは人間の其の性質を現したものです。動物は一定の先見があつてゞはなく、本能によつて同種類のものと集團を造るのです。獅子なども狩りする時には自分だけで出て行くが、平生は穴の中に子や配偶者と一所に棲んでゐると云ふことです。猿が狩りする時に群を成してゐるのは人がよく知つてゐる事實です。

或る學者は云ひました。『私の庭に麥が芽を出して、そして、二つの大きな穗が出來た。で、いよ〳〵其の穗が熟した時分に私は其の穗をとつて見たが併し、實が少しも無かつた。其處で、私は、一本の麥では實ることは出來ない、矢張り、畑に澤山集まつてゐるので穀物は最上の結果を結ぶことが出來るのだと云ふことを發見した。』と。

人間も亦其の通りで、獨逸の諺に『一人の人間は人間でない』と云ふのがあります。智力の發達に關しては猶のことです。同胞との共同生活を營むことによつて人間は人間になり得るのであります。

ですから、一ヶ所に集まりたがつたり、勉強するにも一つ處でしたがつたり、群集の後をつけたがつたりするのは、子供に植へつけられてある自然の性質であるから、其の傾向を矯めようとすることはよいが、全然、それを排させようとすることはよくない、親や、教師はそれを心得て置く必要があると或る學者は云つてゐます。

『如何なる動物も人間程、群居的なものはない。人間は一家族の一員として許りでなく、社會の一員としての外には考へられない。其の社會が政治社會にしろ、産業社會にしろ。』とホール博士は云つてゐます。又、

『お互ひの人格を區別すること、及び、其の人格の價値をお互ひに認め合ふことが人間の滿足の必要條件である。丁度、人間の體が食物と空氣を要求するように他の人間を要求するものである。』と、スモール博士は云ひます。

四　親　切

親切と云ふ傾向は同族と云ふ名詞から來てゐます。恐らく、此の親切と云ふ文字は本來は自分の血族に對する適當な行爲と云ふことを意味してゐたでせう。自分の仲間

に對する親切と云ふことは群居に必要な要素であります。そして、此の親切も亦家庭生活から成長したもの、殊に母が子供を世話することから始まつたものです。ソーンダイク博士は『母の行爲と親切』と云ふ問題で次のように云つてゐます。

『慈善と云ふことと、現代の生きた信仰としての四海同胞主義は、其の根底に於ては人間の本來の傾向を基礎としたものである。そして、此の傾向は婦人に於て最も強い。則ち、子供を世話し、子供の幸福を思ひ、子供の苦痛を取り去つてやろうとすることから來てゐる。子供に對する母の愛情が擴がつて凡ての人間に對するようになつたものが慈善と同胞主義である。男の子や、一人前の男子も亦母の此の氣分を缺いてゐるものではない。幼兒に食物を與へたり、子供の遊びを見て同情的に笑つたり、小さい子供の敵を追ひ拂つたりすることは、母親と同じ本能を持つてゐることの證據である。で、此の一般的同情、又は、憐みは第一には人の苦痛を除去してやることであり、第二には他人の幸福、或ひは、滿足を見て、自分も積極的に滿足しようと云ふ慾望である』と。

ジエームス博士は、又、『同情』と云ふ問題の下に次のように論じてゐます。『同情の

或る形式、たとへば、母が子供に對する同情の如きは確かに本能的であつて、老年になつてから子供の世話を受けようなどと云ふ先見から來たのではない。子供の危險に對しては母親は本能的に防禦の態度をとる。又、人は自分の愛する人や友人に迫つた危險を見た時には子に對する母親と同じような態度となり、自分の危險をかへりみないことがある。けれども、此の同情は必ずしも群居的な傾向から來るものとは定まらないものである。たとへば、牛の群は仲間が傷を受けても其れを救はうとはしないが、犬は外の犬が病氣になるとなめてやつたり、食物を運んでやつたりする例がある。猿の同情の深いことは多くの觀察家によつて證明されてゐる。』と。

して見るならば、人間が他人の苦痛を見たり、危險を見たりする時に烈しい刺戟を受けて其の救濟に取りかゝろうとすることは、例外はあつても、規則であると云つても差し支へないわけであります。

五　智　識

今迄に、人間と下等動物との共通點に付てお話して來ました。そして、其等の性質

は人間も大して優劣がないことを申ました。其等の性質は本能的であつて、そして、それが人間社會の縦糸となつてゐるものであります。そんならば、社會の横糸は何であるか？　特に人間としての性質は何であるかと云ふ質問が起つて來ます。

人間と下等動物とを區別する最も明らかなものは、人間には記憶があること、そして、其の記憶を總合する力があることです。人間は自分の經驗を話すことが出來、そして、聰明になることが出來ます。人間は概念を造ることが出來ます。そして、これ等の高等な心理的性質は、生理心理學者の説明によると腦のうちに其の根據を持つてゐます。「たとへば、普通の腦の目方は歐州人の男子は千三百六十グラムで、女子は千二百十一グラムあり、そして、猿のは三百六十グラムである。歐州人の腦の重量は體量の三パーセントであるに反して、猿のは其の體量の一パーセントである。」と。

でありますから、人間に特別なものは智力的の活動であります。智力が群居の性質と相待つて、そして、交通となります。二人の人が出逢つた時にはお互ひにお互ひを理解しようと試みます。其目的は、もし、出來るならば相手を征服しようとし、或ひは、相手

の或る特種の性質を發見しようとします。そして、お互ひの位置を定めようとします。
この征服しようとする本能は、服從の本能と必然的な關係があります。何となれば、もし、各人が他人を認めることを抗む、つまり、服從することを拒絶するならば制裁と云ふことは不可能であつて、從つて、社會は存在しないことになります。
メクヂユガル博士は彼の『社會心理學』に於て七ツの本能と其れに一致する情緒を擧げてゐますが、其のうちの三ツは制裁と云ふかたちか、服從と云ふかたちになつて現れると云つてゐます。又、同博士が記述してゐる本能行爲の五ツも矢張り、制裁及び服從のかたちと見て不都合ないものであります。
情緒はいはゞ本能に對する伴奏のやうなものであるから、情緒の變化に關しては社會學者は深く關係する必要はない。けれども、其の情緒が人間の行爲と接觸する點に社會學者は興味を持つ。一國民は其の情緒によつて心理的に一ツになることが出來る。そして、一大勢力を造り得るから其處に研究する興味あるがあると或る社會學者は云つてゐます。

編輯を終りて

●庭の梅の花と先きを爭ふて毎年來ては窓の向ふの墓地から、いつも同じ聲で春の來たことを告げて呉れた鶯が昨年からパッタリ來なくなりました。墓地の立木の大部分が切り倒されたのを悲しんで來ないのか、それとも、何にか彼女の身の上に異變があつたのかと私の心はあてもなく彼女の行方を探すので御座います。

●明日も終日有効に頭を働かせ得るために熟睡したいものだと云ふことが毎晩床に入る前の私の祈りです。けれども、或る仕事にくぎりをつける爲にツイ遲く迄頭を使ひ過ぎた翌日は何さなく頭に暈が出來ます。あゝ今日は晩迄頭が使へないかしらとがつかりして居ると私の開けた窓からそよ／＼と入つて來る柔かい春風が私の額をなでゝ徐ろに、頭にかゝつてゐる暈を取り去ります。私は無限の喜びを感じて、春の來たことを天に謝し、自分の健康に付て兩親に感謝致します。

●皆樣の御同情によつて案外の部數を出してゐるにも拘らず、また、本誌は月々いくらかの缺損を出して居ります。其の缺損を外の仕事で働き出すことを、勿論、私は大した苦痛とは思つて居りません。併し赤子が自分の膝を離れて獨り歩きが出來るようになる日を親は待ちこがれて居るやうに私も本誌が經濟的に獨立出來る日を待ち樂んで居るので御座います。御同情厚き皆樣がお一人づゝ讀者を御周旋下さいますならばそれで充分獨立が出來ると思ひます、どうぞ事情を御推察の上御周旋の程を御願ひ申し上げます。

●櫻の便りがチラホラ聞へて參りました皆樣の御健勝を祈り上げます。

本誌定價表

一册	金二十五錢	送料五厘
六册	前金 金壹圓四十錢	（送料共）
十二册	前金 金貳圓七十錢	（送料共）

■誌代及郵税は前金の事御送金の際は振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと■郵券代用は五厘切手にて一割増■廣告は御照會次第御相談いたします

大正十年三月二十三日印刷納本
大正十年四月一日發行

東京四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉

東京神田區仲猿樂町十七
印刷人　大杉直次郎

東京四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會社
振替東京五三六八八

「婦人と新社會」第拾四號　大正十年四月一日發行　大正十年三月二十五日印刷納本　大正九年三月二十日第三種郵便物認可